

もう一つの国際化

또 하나의 國際化

在日韓国・朝鮮人問題をご存じですか？

在日韓國・朝鮮人問題を 알고 계십니까？





## 序 文

本県は、1989年に大韓民国 慶尚北道と姉妹提携を行い、交流の輪は行政レベルの交流から県民各層へと拡がり、今日では多くの県民が親しい隣人として、韓国の人々と交流を始めるようになりました。

こうした慶尚北道との交流を基軸にして、本県の国際化を一層推進させるとともに、北東アジア地域における交流・協力のネットワーク化を積極的に推進しているところです。

国際化の推進は、開かれた地域社会への変革の場として、また地域活性化の起爆剤として、今後とも積極的に推進していく必要があります。

国際化という場合、身近な地域社会に居住している外国人との関りも、また重要な課題となります。現在、県内には3千人以上の外国人が住んでいます。このうちの約4割に相当します1,255人が韓国・朝鮮籍でそのほとんどは戦前から日本に住んでいた人々、あるいはその子孫であり、在日韓国・朝鮮人とよばれる人々です。

これらの人々は納税の義務を果たし、本県の発展に貢献してこられた地域社会の一員でありながら、戦後50年を経過した今もなお、いわれない差別と偏見の中で有形・無形の圧迫を感じながら生活をされています。

在日韓国・朝鮮人の多くは慶尚南道、慶尚北道の出身者であり、とりわけ慶尚北道と姉妹提携を結び年々交流が活発化している本県にとってその意味は重く、歴史を見つめ、この問題の本質を理解し、共に考え解決を図っていくことが必要です。

異なる民族が真に共同して暮していくことが「国際化」の神髄である以上、在日韓国・朝鮮人をはじめとする在住外国人との共生、すなわち「内なる国際化」の推進なくして真の国際化は望むべきもありません。

このため、1991年に引き続いて、新たな調査に基づき在日韓国・朝鮮人の実態を紹介するパンフレットを作成いたしました。

在日韓国・朝鮮人の心に一歩でも近づき、共に生きる住みよい地域社会の実現に向けて決意を新たにしないではられません。

パンフレットの作成に当たっては、島根大学名誉教授内藤正中氏のご指導を受け、在日韓国民団島根県地方本部及び在日本朝鮮人総联合会島根県本部の御協力をいただきましたことに感謝申し上げます。

また、このパンフレットにふさわしいイラストを書いてくださいました宋 貴美子さんにもお礼を申し上げます。

1997年3月

島根県総務部長 原 正 之

# 島根県の在日韓国・朝鮮人

## はじめに

このパンフレットでは、日本に住む「韓国籍」「朝鮮籍」の人々を総称して「在日韓国・朝鮮人」を使い、地理的・歴史的名称としては、「朝鮮」「朝鮮半島」「朝鮮人」を使用いたします。



## なぜ、在日韓国・朝鮮人が住んでいるのか

在日韓国・朝鮮人が日本に住むようになったのは、日本の植民地政策と戦時体制下の国家総動員体制と深い関わりがあります。

### 【植民地政策－朝鮮進出の時代】

明治期の日本は、国内での貧しさを解決する方法として、また新たな市場や活動の場を求めて朝鮮半島への進出を図りました。こうした進出を足がかりにして、日本人や日本資本の朝鮮半島への進出を一層拡大させたのが、日本による韓国併合

(日本の植民地支配)であり、日本人の朝鮮での土地取得を容易にした土地調査事業です。これによって土地を取奪された朝鮮人は離農離村を余儀なくされ、日本内地にやってきた朝鮮人は植民地出身の労働者として、内地労働力市場の最底辺に組み入れられていきました。

### 在日朝鮮人の推移

単位：人

年次	全国	島根県	備考
1913	3,635	51	
1920	40,738	717	鹿足郡395、那賀郡216、美濃郡76
1930	418,989	2,733	美濃郡529、鹿足郡486、那賀郡485、邑智郡341
1940	1,241,178	8,075	
1942	1,625,054	9,803	
終戦当時	約240万	約4万	
1947	508,905	6,138	

(注) 1913、1942年は『在日朝鮮人関係資料集成』、1920、1930、1940、1947年は『国勢調査報告』による

### 在朝日本人の推移

単位：人

年次	全国	島根県
1905	42,460	・1903年に県立商業で、1908年から県立水産学校で韓語科が開設された。
1911	210,989	・1907年に山陰道産業株式会社が設立され、慶尚北道金泉などで130町歩の土地を購入し、農業経営を行った。
1919	346,619	・1910年の鬱陵島への日本人移住者総数224戸、その大部分は隠岐島人で占められていた。
1931	514,666	
1942	752,823	

(注) 在朝日本人数については、『朝鮮を知る辞典』(平凡社)による

### －島根県内の状況－

- ・近代になって最初の島根県在住者は、1903年に松江市の島根県商業学校に招かれた韓語講師といわれています。ただ、こうしたケースは例外で、その後、朝鮮人のほとんどは、1910年以降に労働者として日本に渡航してきました。
- ・1913年の内務省の調査によれば、島根県には51



人の朝鮮人が在住していました。1915年の職業別調査では島根県在住者46人のうち、少数の商業者を除く、39人が土木建築業に関わる労働者で占められていました。

- 1920年当時、全国的にも島根県においても、土木建築業への従事が圧倒的多数を占めていました。また、ほとんどが男子の出稼労働者でした。
- 地域的には1920年の浜田駅、1922年の益田駅の開業に向けた鉄道工事のため、那賀、美濃、鹿足郡に集中していました。その後、1930年の江津－川戸間、1934年の江津－川本間の鉄道工事や開通後の木材・木炭生産に伴い邑智郡で急増するとともに、出雲地方においても1932年の木次－八川間の鉄道工事と木炭生産の急増に伴って主に仁多郡や飯石郡で増加していきます。
- こうして、1930年代には朝鮮人は県下全域に在住するようになりました。職業別では、土木建築業従事者に代わって林業関係従事者が最も多くなり、特に山村に在住する炭焼夫は増加していきます。男女別では男3対女1で、結婚した世帯も多くなってきます。

#### 《韓国併合》

日本は3次にわたる日韓協約を強要して、韓国から外交権を奪って保護国とし、漢城に統監府を置いて内政全般を掌握し、日本政府の意に従わない皇帝を退位させ、軍隊も解散させた。これに反対する抗日運動を武力で鎮圧し、1910年「韓国併合に関する条約」を結んで、朝鮮を植民地にした。

ここに、朝鮮は日本領土の一部とされ、朝鮮総督府のもとに太平洋戦争終結まで36年間にわたって日本の支配下におかれた。

#### 《土地調査事業》

朝鮮の植民地初期に行われた土地調査事業は、近代的な土地所有権の確定を名目にしたものだったが、調査の方法は短い期間の間の煩雑な自己申告に加えて、日本人官憲や地方有力者・地主によって行われたため、多くの農民が土地所有権を否定され、土地を収奪された。こうした土地の多くは国有地として日本人に払い下げられていった。

土地を失った農民は、都会に働き口を求めて出ていくが、朝鮮人が資本を集めて会社をつくることを制限したために、朝鮮の都会にも働き口はなく、日本をはじめ中国東北部、ソ連シベリア、ハワイ等に出稼ぎや移住した人も多い。

#### 【戦時体制下の時代】

戦時体制下になると、朝鮮人に対する内地移住政策は強化され、いわゆる強制連行が行われ、青年男子だけでなく、女子も「挺身隊」として徴用されました。また、なかには従軍慰安婦にされたりもしました。

1938年に国家総動員法が、翌年に国民徴用令が公布され、朝鮮においても軍需物資、労働力の動員が大々的に行われるようになり、労務動員計画に基づいて、太平洋戦争終結の1945年に至る6年間に「集団募集」・「官斡旋」、さらには「徴用」によって72万人以上の朝鮮人労働者が日本内地に強制連行され、鉱山や土木工事に就労させられました。

#### －島根県内の状況－

- 島根県下では、簸川郡の鰐淵鉱山、仁多郡の新北原発電所と美濃郡の澄川発電所工事現場に就

労したほか、安来の日立工場にも「半島訓練工」が配属されました。

- 美濃郡都茂鉦山には、朝鮮から郡単位で強制連行した80名と、各地から徴用した96名の名簿が発見公開されています。
- 家族持ちが多くなり、職業別では、農業、土木建築業、戦争の労働力不足を補ったかたちで小作人、交通業、漁夫が増加しました。

### 《強制連行》

日中戦争が全面的に拡大するにつれて、日本は内地で労働力不足をきたし、1938年に制定された国家総動員法に基づく労働力移入政策によって、朝鮮から労働者あるいは軍事要員として強制的に駆り出されました。その結果、炭坑、鉦山、土木建築の現場や工場、軍人軍属などに、確認されているだけでも70万人を超える朝鮮人が連行され強制労働を強いられました。また多くの朝鮮人女性が従軍慰安婦として辛酸をなめることになりました。

### 【終戦直後から今日までの時代】

1945年の終戦で、朝鮮人は解放された祖国に帰っていきます。

しかし、朝鮮での生活が困難な様子や軍政下での政情不安が伝えられ、さらに帰国時の持ち帰り通貨額や手荷物に制限があったことなどから、帰国をあきらめて日本に留まることにした人たちも多かったです。

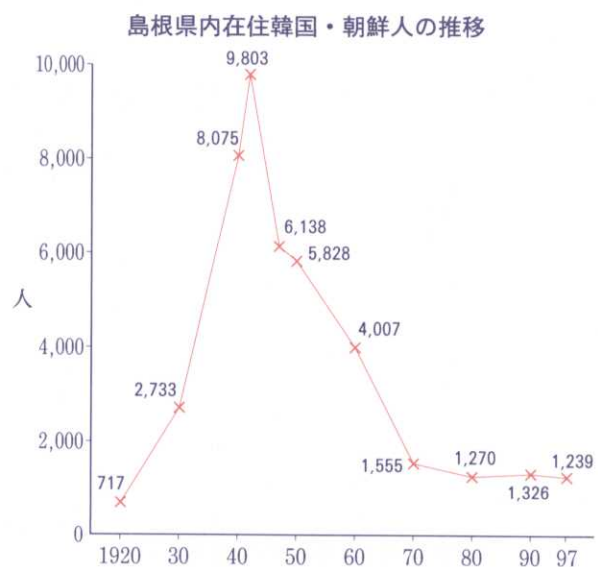
.....  
彼らとその2世、3世以降が現在の在日韓国・朝鮮人になります。  
.....

占領下の時期は、「いまだ日本国籍を有する」とされた在日朝鮮人ですが、一方では「外国人とみなす」といわれて外国人登録令が適用されました。1952年のサンフランシスコ講和条約を期して、法務省民事局長通達でもって一方的に日本国籍が剥奪されました。

こうして在日朝鮮人は、パスポートをもたない「外国人」として、日本に在在することになりました。

### —島根県内の状況—

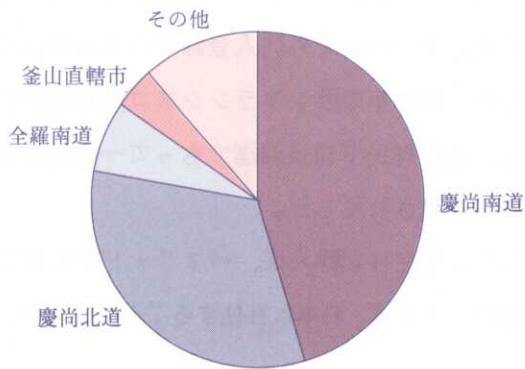
- 終戦当時、島根県には約4万人の朝鮮人がいたといわれ、終戦直後の時期に約3万人が帰国し、1947年には6,138人の朝鮮人が在在していました。
- その後代表的生業であった製炭業の崩壊を契機に、県内在在朝鮮人は減少の一途をたどり、県内に留まった人も山間部から松江市・出雲市・益田市など都市部に移り、飲食店やパチンコ、建設業、古物回収業などの自営を行うようになりました。
- 1997年の島根県の韓国・朝鮮人は1,239人になっています。



(注) 1913、1942年は『在日朝鮮人関係資料集成』、1920、1930、1940、1947年は『国勢調査報告』、1950～は外国人登録者数



本籍別韓国・朝鮮人登録者数（1996年12月末）



総数	1,282人	
慶尚南道	586	45.7%
慶尚北道	402	31.4%
全羅南道	93	7.2%
釜山直轄市	46	3.6%
その他	155	12.1%

\* 内藤正中氏の『日本海地域の在日朝鮮人』『山陰の日朝関係史』『島根県の環日本海交流』を参照しました

朝鮮半島行政区画図



在日韓国・朝鮮人問題キーワード

内なる国際化

国際化の進展が叫ばれる今日、日本には多くの外国人が暮らしています。外国人が持つ異質の文化、異なる民族性に対して、異質性を認めながら自分と同じ社会を構成する一員、仲間であることを認めあうようになることを「内なる国際化」といいます。

## 第2回在日韓国・朝鮮人実態調査結果

### ～島根県民としての在日韓国・ 朝鮮人の意識～

#### はじめに -調査方法と回答について-

この調査は、在日韓国・朝鮮人が日本社会で生活している実態とその中での問題点を把握し、島根県が推進する「内なる国際化」の基礎資料とするため、第1回目を1991年2月に、第2回目を1996年2月に実施しました。

調査の方法は、在日本韓国民団島根県地方本部、及び在日本朝鮮人総聯合会島根県本部の協力を得て、島根県内在住で20歳以上の在日韓国・朝鮮人の方に郵送し、回答用紙を島根県国際課に返送してもらう方法を取りました。

質問は原則的に選択肢方式で、一部自由意見を記入してもらいました。

表1 実態調査への回答状況 単位：人

	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計
外国人登録者数	164	202	240	153	110	129	998
回答者数	41	44	48	45	43	40	261
回答率(%)	25.0	21.8	20.0	29.4	39.1	31.0	26.2

1995年12月末現在の外国人登録者のうち20歳以上の韓国・朝鮮籍の人は998人です。そのうち今回の実態調査への回答者数は261人で、回答率は26%となっています。

回答者の内訳をみると、性別では男性が128人、女性が123人、10人が不明とほぼ同数、また年代別にみてもほぼまんべんなく回答が得られています。

本籍（父ないし祖父の出身地）では、慶尚南道と慶尚北道からの出身者が全体のおよそ八割を占めています。

また、回答内容を分析するにあたって、便宜上40代以下の回答者を『戦後世代』としています。



#### 在日韓国・朝鮮人問題キーワード

**民団・総聯** 在日韓国・朝鮮人の集まる民族団体のうち代表的なものが、大韓民国（韓国）を支持する団体である在日本大韓民国民団（民団）と、朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）を支持する団体である在日本朝鮮人総聯合会（総聯）です。民団に参加する人は韓国を、総聯に参加する人は北朝鮮を支持することにより参加しているのであって、実際の出身地や本籍によるものではありません。

## 島根県の在日韓国・朝鮮人の生活

### ① 出身地

- ◇県外出身者が六割近くを占めています
- ◇女性には県外出身者が多いです

現在、島根県内に在住している在日韓国・朝鮮人の出身地をみると、島根県内108人、島根県外の日本84人、本国67人で、県外出身者が58%を占めています。

これを戦後世代の既婚者についてみると、女性の県外出身者が60%と、男性の23%を大きく上回ります。そのうち本国出身者が35%を占め（戦後世代の男性の本国出身者は1名のみ）、県内在住の男性が同じ民族の結婚相手を県外及び本国まで広く求めてきた状況が考えられます。

この理由として、日本で暮らしながらも同じ民族が結婚するのが望ましいという強い願いがみられます。



### ② 結 婚

- ◇結婚相手は同胞が八割以上です
- ◇若い世代では日本人との結婚が増加しています

表2 結婚の状況 単位：%

		前回	今回
既 婚	同 胞	88.7	82.4
	同胞日本国籍	0.4	1.9
	日本人	9.9	13.9
	その他		0.5
	不 明	1.1	1.4
	計	84	82.7
未 婚		14.1	16.9
不 明		1.8	0.4

結婚相手は同胞、つまり在日韓国・朝鮮人同士の結婚がもっとも多く八割以上を占めていますが、5年前と比べると日本人と結婚する人が増えてきています。

20代では57%、30代でも36%が日本人と結婚しており、若い世代で日本人との結婚が増加しており、必ずしも同胞にこだわらない状況も生まれてきています。

また島根県においては在日韓国・朝鮮人同士の出会いの場が少ないということも考えられます。



### ③ 教 育

- ◇20代の進学率は県全体と同水準です
- ◇民族学校への通学割合は32% (20代)
- ◇日本の学校へ民族を隠して通ったことがある人は33%

表3 学歴と通学した学校 単位：人

		前回	今回
中学卒	民族学校	5	3
	日本の学校	66	43
	母国の学校	11	12
高校卒	民族学校	31	21
	日本の学校	107	72
	母国の学校	6	13
大学卒	民族学校	15	14
	日本の学校	37	31
	母国の学校	2	3
計	民族学校	51	38
	日本の学校	210	146
	母国の学校	19	28

教育については、主に20代の状況を見ていくこととします。

20代での進学率は県全体とほぼ同水準です。50代以上の人では中卒までが多数でしたが戦後世代では高卒以上が過半数を占めています。

また通学した学校は、若い世代で民族学校への通学割合が高く32% (20代) となっています。

表4 民族を隠して通学  
単位：%

	前回	今回
ある	43.3	42.5
ない	56.3	54.7
不明	0.4	2.8

母数は「日本の学校」通学者

日本の学校に通学した人の中で、自分が在日韓国・朝鮮人であることを隠して通ったことのあるのは20代で33%でした。前回の41%と比べてその割合は下がっており、学校教育における国際理解教育などにより日本人の排他性が改善されてきたこと、または若い日韓国・朝鮮人の民族的自覚が高まってきたことが考えられます。



#### 在日韓国・朝鮮人問題キーワード

##### 民族教育 民族学校

在日韓国・朝鮮人は日本社会の構成員であると同時に、在日韓国・朝鮮人という社会集団の一員として、民族の誇りをもって日本社会を生き抜こうとしています。自分が何者であるかを明らかにすることは人間としての誇りを持つことにつながります。日本の植民地政策下において徹底的に民族を否定された在日韓国・朝鮮人は、戦後、民族を取り戻し人間の誇りを回復するため民族教育を始めました。民族学校を作り、日本の学校の中に民族学級が作られているところもあります。島根県には、松江に6・3制の山陰朝鮮初中級学校があり、28人(97年5月現在)の生徒が在籍していますが、私立の各種学校として扱われており、一般的に国立大学の入学資格が認められないことなどが問題となっています。

#### ④ 民族の言葉

◇母国語を『話せる』人は四割強です  
◇母国語の習得には、民族学校が大きな役割を果たしています

表5 母国語の能力  
単位：%

	前回	今回
よくできる	27.6	28.7
まあできる	21.2	15.3
単語程度	26.1	29.1
できない	22.4	26.8

母国語を話す能力については、「よくできる」と「まあできる」をあわせた『話せる』人の割合をみると44%で、前回調査時の49%より少し減っています。

母国語を『話せる』人の家庭での言葉の使い方をみると「母国語が多い」18%、「日本語が多い」60%、「日本語のみ」22%となっており、八割以上が日本語を主に使っています。



母国語（民族言語）の習得は生活の中での受動的な習得よりも、教育や学習による積極的な習得が多い、つまり民族性をもっともよく象徴するものの一つである言葉を大切に守っていく姿勢が伺えます。また、戦後世代で『話せる』人の通った学校をみると62%が民族学校に、28%が母国の学校に通っていると回答しており、言葉の習得に民族学校が大きな役割を果たしていることがわかります。

#### ⑤ 民族的習慣

◇家庭内にとどまらない社会的な民族習慣は少なくなる傾向にあります

表6 民族的習慣  
単位：%

	前回	今回
料理	92.3	91.6
民族衣装	88.7	82.8
祭事	77.6	69.7
結婚式祝事	67.2	58.2
本、レコード	58.9	49.0
ない	6.1	1.1

ほとんどの人が家庭生活における民族的習慣を守りながら暮らしているといえますが、各項目とも、前回よりは若干減少傾向にあります。特に、一家庭内にとどまらない社会的な事柄ともいえる「祭事」や「結婚式等祝事」の割合が少なくなっています。これは主に戦後世代で少なくなったことに起因しており、若い層では民族的習慣、行事に対する意識が希薄になってきていることが伺えます。また、日本人との結婚が増えてきていることや在日韓国・朝鮮人の数が少ない島根県においては、こうした行事などを守り伝えていくのは難しいということが考えられます。



「本やレコード」が少なくなっているのは、母国語を『話せる』人が減っていることの原因とも考えられます。

県内の在日韓国・朝鮮人の生活においては、民族の伝統を守ることが大切にされています。このことは結婚相手を同胞から迎え、民族学校などでの民族教育、母国語の習得、家庭での民族的習慣を守り、次世代に伝えようとする生活実態から理解できます。

しかしながら、世代交代が進み三世や四世が教育や結婚の当事者となりつつある今日、若い世代では結婚観においても、民族的な生活習慣においても、その意識に幾分変化が見られます。在日韓国・朝鮮人としての民族性を自覚しそれを積極的に表に出していこうとする人達、逆に民族へのこだわりは薄く日本社会に同化して生きていこうとする人達など、一口に在日韓国・朝鮮人といってもその考え方、生き方は一つの方向を示すのではなく、それぞれが様々な考え方を持っている現状が浮かんできます。



## 日本人との関係

### ① 異なる民族の存在

表7 周りの人の認識 単位：%

	職 場		地 域	
	前回	今回	前回	今回
みんな知ってる	71.5	63.6	73.3	71.6
何人か知ってる	17.8	20.3	19.3	22.6
誰も知らない	0.9	1.1	0.9	1.1
わからない	0.9	3.1	3.1	4.2
不 明	8.9	11.9	3.4	0.4

自分のまわりの人が、自分が在日韓国・朝鮮人であることを知っているかどうかを質問していますが、ここでは、あくまでも在日韓国・朝鮮人の意識が回答されていることに気をつける必要があります。つまり在日韓国・朝鮮人であることを、自分から周囲に知らせている、または知られてしまっている割合であり、実際にまわりの人が知っている割合ではないという点に気をつけなければなりません。

職場と地域のどちらにおいても、「みんな知っている」が減少しています。

日本人社会の側からみると在日韓国・朝鮮人に対するかつてのような意識が薄れてきている、良くも悪くも在日韓国・朝鮮人の存在を気にならなくなってきていると考えられます。

### ② 本名と通名

◇戦後世代では、本名を使う人が増えています

表8 通名の使用状況 単位：%

		前回	今回
持 っ て い る	本名のみ	2.2	5.1
	本名多い	9.8	9.3
	同じくらい	18.8	15.4
	通名多い	35.1	22.9
	ほとんど通名	26.1	40.2
	不 明	8.0	7.0
		84.7	82.0
持っていない		10.1	10.3
持っていた		4.6	6.9
不 明		0.6	0.8



### 在日韓国・朝鮮人問題キーワード

#### 創氏改名 通名使用

日本による朝鮮支配において、民族の誇りを最も傷つけたのは1940年に実施された「創氏改名」でした。韓国・朝鮮人を皇民化するなか日本人化するため、姓名を日本風に改めさせました。朝鮮民族を日本に同化させようとする創氏改名には根強い抵抗が起りましたが、様々な圧力によって約8割の人々が新しい氏名を作ったとされています。

日本の敗戦後、民族を回復した在日韓国・朝鮮人ですが、日本人からの様々な差別や不当な取扱いを避けるため、日本風の通名が使用されています。



在日韓国・朝鮮人にとって本名を使うということは、民族性の主張の一つであると考えられますが、八割以上の人は日本風の通名を持ち、そのうちの八割が通名を本名以上に使うと答えています。

戦後世代では若干ではありますが、通名を「持っている」人が減り、「持っていたが今は使わない」という回答が増えおり、民族性を積極的に表に出していく若い人が増えていることがわかります。

表9 通名使用の理由 単位：%

	前回	今回
就職等不利益	30.8	21.5
本名使いたくない	10.5	9.8
なんとなく	46.7	29.4
その他	—	32.2
不明	12	7

通名を使用する理由については、「就職などで不利益がある」という明確な差別による理由に加えて、「なんとなく」と答えている人が多く、依然として日本人社会からの通名使用の強制力が有形無形に働いていることが伺えます。

「その他」と答えた内訳を見ると、女性では「親がつけたから」「夫の姓に従っている（日本人と結婚していて）」など家庭環境を理由としたものが多く、男性では「商売上、仕事上都合がよい」という便宜上の理由が多くみられました。また、男女とも比較的高齢層で「役所から強制されて」「本名を使ってはいけないといわれた」という理由があがっています。

### ③ 日本人の友人

- ◇日本人の友人は増えてきています
- ◇民族学校と日本の学校との交流を進める必要があります

表10 日本人の友人 単位：%

	前回	今回
大勢いる	23.9	24.1
何人かはいる	52.1	55.2
いない	22.4	20.3
不明	1.5	0.4

何でも話し合えるような日本人の友人がいますかという質問には、八割の人が「いる」と答えています。しかしながら20代では依然として26%が「いない」と回答しています。女性では全般的に本当の友人が少ない傾向があります。

また、民族学校に通学したと回答した人の41%が「いない」と回答しており、民族学校と日本の学校との交流の必要性、重要性について改めて検討することが必要です。



#### ④ 日本人の理解

◇日本人の歴史認識の弱さが指摘されています

表11 日本人の無理解 単位：%

	前回	今回
よくある	36.8	18.0
時々ある	39.9	57.1
ほとんどない	19.3	20.7
不明	4.0	4.2

在日韓国・朝鮮人についての日本人の無理解については、「よくある」と「時々ある」を合わせて4分の3を占め、少なくなっているものの、未だ十分理解されているとはいえない状況です。

「ある」と回答した内容としては、韓国・朝鮮籍の人が日本に住んでいることを知らないなど、「歴史的認識」に関するものが最も多く、「選挙権を持たないことを知らない」「(現在の)韓国や朝鮮について知らない」など全体的に日本人の歴史認識の無さ、関心の無さが指摘されています。この指摘の対象は一般市民のみならず、行政当局や議員にまで及んでおり、在日韓国・朝鮮人と日本人との相互の認識の差が大きいことを伺わせます。

#### ⑤ 被差別体験

◇何らかの被差別経験があると答えた人は54%でした

表12 被差別体験

単位：%

行政・制度	25.7
職業上	18.8
地域	16.1
学校・教育	26.4
結婚	8.0
その他	8.8

行政・制度における差別では、年金や保険などの社会保障に関する取り扱い、指紋押捺を含めた外国人登録に関すること、参政権がないこと、公務員採用における国籍条項に関すること、成人式や小学校入学の通知がもらえないなどがあげられています。日本人と同様の納税義務を果たしているのに、国籍により権利を制限され、煩雑な手続きが要求されることが大きな問題として意識されています。

職業上の差別では就職時の差別がほとんどを占め、日本人社会の排他性が強く指摘されています。その他には銀行からの融資が受けられないこと、職場での差別的発言・扱いなどがあげられています。ここで注意しなければならないことは、在日韓国・朝鮮人の職業は日本社会の閉鎖性により、自営や民族系の企業に偏っている状況があり、調査の回答が県内の職場環境すべてを対象にしてい

#### 在日韓国・朝鮮人問題キーワード

##### 外国人登録

日本に在留する外国人は、特別の許可を受けた場合を除いて外国人登録が義務づけられています。登録は市町村の窓口で行われ、カード形式の「外国人登録証」が交付されます。16歳以上の外国人は、その「外国人登録証」の常時携帯が義務づけられ、警察官などの求めがあれば提示しなければなりません。



るとはいえないということです。

学校・教育における差別では、数の上で多いのは友人からの「チョウセン」「臭い、汚い」などの差別的な言葉、いやがらせ、いじめでしたが、教師から受けた進路指導時や学校生活での差別的な扱い・発言は、その影響力から考えても、より重い問題としてとらえる必要があります。また入学拒否や面接時の差別的扱いもあげられており、就職時と同じような社会的な閉鎖性が感じられます。

生活の基盤である地域における差別では、自治会などに加入させてもらえない、近所の人からの差別的言葉、蔑視が多くあげられています。また住宅やアパートの賃貸を断られたり、賃貸が難しいといった回答がありました。

結婚に関する差別では、相手が日本人である場合に、相手の親、親戚、交際相手から断られることに加え、自分の親を含めた在日韓国・朝鮮人社会からも抵抗があると回答されています。

様々な場面で共通してみられるのが言葉による差別と疎外です。「朝鮮人」という言葉そのものは一般名称であるともいえますが、表現するものが不明確であったり、話し手の口調や態度、行動や相手との状況によっては差別用語となり得ます。在日韓国・朝鮮人にとっては、蔑視の言葉として押し付けられてきた歴史があり、「朝鮮人」を一般名称として使用する場合も、このことを意識する必要があります。

また生活のあらゆる場面で、日本人社会の閉鎖性が様々な形で現れており、制度の面でも意識の面でも、改めてこのことを見つめ直し、改善できることは率先して改善していく姿勢が求められます。

在日韓国・朝鮮人が本名で生きていける社会の実現は、在日韓国・朝鮮人にとって民族の自己実現の方途であり、日本人社会にとっても開かれた地域社会であることの証左となるものです。

戦後世代で本名を使用する割合が高くなってきていることは注目されますが、通名使用が半数を越える状況は依然として変わらず、開かれた地域社会の実現にむけて重い課題を投げかけています。



#### 在日韓国・朝鮮人問題キーワード

##### 指紋押捺

16歳以上の外国人は、外国人登録にあたって指紋押捺義務があり、犯罪者と同じような扱いであるとして反対運動が続けられました。1992年の法改正により、永住者または特別永住者については、指紋押捺を廃止し、署名と家族事項を登録することに改められています。

## 今後の生き方について

- ◇過半数が民族の誇りをもって日本で暮らしていきたいと回答
- ◇戦後世代では、日本国籍を取りたい人が増加傾向

表13 今後について 単位：%

	前回	今回
母国に帰りたい	5.5	7.3
誇りを持って在日	66.3	57.5
日本国籍取得	17.2	23
その他	7.7	6.9
不明	3.4	5.4

「日本に住み民族の誇りを持った生活をしたい」と回答した人が過半数を占めていますが、「日本国籍をとりたい」と回答した人が前回に比べて増えています。特に30代では36%、40代で33%と高くなっています。これを配偶者が日本人の人に限り、35%とさらに高い割合となります。また、母国の言葉が『話せる』人ではこの回答は少なくなっています。

「その他」と答えた内容を見ると「今のままでよい」「帰化するかどうか迷っている」「深く考えたことがない」などの答えがあがっています。

それぞれの理由を見ると、「できれば母国に帰りたい」は70代以上の高齢者の願いであり、「生まれた国だから」、「誇りを持って在日」では、「民族に対するこだわり」は強いが、「生活の基盤は日本にあるので」に類する答えが多かったです。「日本国籍をとりたい」では、「子どもの将来のため」が30代40代を中心に、「選挙権がほしい」等の権利を取得するため全般で多くみられ、「一生

日本で暮らすから」「ただ国籍が韓国であるだけ」など民族にこだわらない意見が若い層で見られます。

また日本国籍を取得することについては、権利や生活の上での便宜上のものであり、民族の誇りは持ちつづけるという意見もありました。たとえ帰化によって日本国籍となっても、韓国・朝鮮人としての民族は変わらないということであり、在日韓国・朝鮮人の問題を考えるときには、日本国籍の韓国・朝鮮人が多数存在しているということ意識しておく必要があるでしょう。法務省の統計によると1996年末の韓国・朝鮮籍の人は全国で657,159人ですが、ここに含まれない帰化により日本国籍となった人が204,622人いるという状況があります。

「母国に帰りたい」と答えた人以外、つまり全体の九割以上の人が多様な差別や困難にもかかわらず、今後も日本で暮らしていくと意思表示しています。30代、40代の子供の教育、就職等の問題に直面する世代を中心に、日本国籍取得を望む割合が増えている状況も、日本社会に厳然と存在する民族差別、国籍差別が大きな要因として考えられます。在日韓国・朝鮮人にとっての定住条件の改善が、日本社会として解決すべき大きな課題となっています。





## 行政（県）の施策について

### ① 在日韓国・朝鮮人をとりまく状況の改善

◇十分ではないが改善してきていると評価されています

表14 状況の改善 単位：％

	行政	住民
改善した	6.5	6.9
少しは改善した	53.6	51.7
改善していない	24.9	26.4
わからない	1.9	1.9
不明	13	13

行政施策、住民意識ともに「改善した」「少しは改善した」という評価が過半数を占めていますが、4分の1の人は全く改善していないと回答しています。なかでも20代では三割以上の人が「改善していない」と回答しています。この回答を見ると、行政からの情報提供にも問題があるように思われます。

改善した内容としては、行政施策では年金、福祉、保険等の制度、外国人登録の指紋押捺の廃止等があげられています。

住民意識については、改善内容を書いた回答は少なかったのですが、回答されたなかでは、「表面的に差別はなくなったが実際には改善されてい

ないのでは」という内容のものが多く、日本人社会に受け入れられているというよりは、ただ忘れられているだけではないのかという、拭い切れない不信感が感じられます。

逆に「改善していない」と書いた人では、公務員採用の国籍条項、地方参政権、韓国のみ偏った交流、なくならない差別など、があげられていました。

### ② 国際交流の推進

◇国際交流についてはおおむね好意的  
◇身近な交流事業への期待が多い

表15 国際交流について 単位：％

	前回	今回
積極的推進	54.3	47.1
特に関心ない	15.6	27.6
良と思わない	3.7	1.1
その他	23.3	16.1
不明	3.1	8.0
計	100.0	100.0

約半数の人が「積極的に推進すべき」と回答していますが、前回と比較するとその割合は減っており、逆に「特に関心がない」と回答した人が増えています。なかでも20代では「積極的推進」が27%と少なくなっています。県が進める交流事業について、理解されていない（知られていない）、または自分には直接関係がないことだと受け止められている状況があると思われます。

ただし、「良いこととは思わない」という否定

#### 在日韓国・朝鮮人問題キーワード

##### 国籍条項

在日韓国・朝鮮人に対する差別は、法律・制度においては民族の違いを理由にされるのではなく、国籍による制限を加えることによって多くの差別が現出し、この国籍条項は生活のすみずみまで影響を及ぼしています。差別撤廃を求める運動によって、1970年代以降国民健康保険の加入、公営・公団住宅の入居、国民金融公庫の融資などが改善されました。公務員採用の面では看護婦などの専門職では採用が認められるようになってきています。

しかし年金については、経過措置が取られなかったことにより、老齢年金、障害年金が受け取れない人がいること、公務員採用については、一般行政職の公務員や教職員から外国人を排除する国籍条項が残されています。

的な意見は1.1%と少ないので、国際交流を推進すること自体は好意的に受け止められていると考えられます。「その他」と答えた内容でも、慶尚北道に限らず北朝鮮や韓国その他の地域との交流、国内での身近な交流事業を望む意見が多くみられました。

③ 島根県に望まれる「内なる国際化」  
関連施策

- ◇韓国だけでなく、北朝鮮(朝鮮民主主義人民共和国)との交流が求められています
- ◇民族学校に対する支援が求められています
- ◇年金の支給対象の改善が求められています
- ◇地方参政権については、意見が分かれています
- ◇公務員の国籍条項撤廃と民間への波及効果が期待されています

表16 今後期待する施策 単位：%

	前回	今回
北朝鮮との交流	13.7	40.3
朝鮮学校への助成	34.4	39.6
国民年金適用・支給	—	33.1
地方参政権	14.2	27.9
外国人登録の改正・撤廃	15.3	27.9
地方公務員採用	—	16.2
在住外国人施策の推進	—	12.3
就職差別根絶	29.5	11.7
地域の意識改善	—	9.1
国際交流の推進	5.5	6.5
教育の改善	10.4	4.5
その他	7.1	13.6

自由意見には、全体の六割にあたる154人からの回答記入がありました。

内容を分類すると、最も多かったのは「韓国だけでなく北朝鮮(朝鮮民主主義人民共和国)との交流も進めてほしい」、続いて「朝鮮学校への助成」で、どちらも記入者の四割が希望しています。

地方参政権については、三割の人が望んでいますが、これには反対する意見や慎重な対応を求める意見もあり、在日韓国・朝鮮人の中でも考えが別れていることが伺えます。

地方公務員採用については、国籍条項撤廃の実現を求めるとともに、企業等への波及効果により就職差別が改善されることを期待する意見がみられました。行政による積極的な対応が期待されている部分です。

「その他」の中には、具体的な要望ではなく、「納税等義務に応じた日本人と同じ権利、同じ扱

在日韓国・朝鮮人問題キーワード

**地方参政権** 公職選挙法では、選挙権、被選挙権ともに日本国民であることを必要としています。在日韓国・朝鮮人を含めた外国籍住民には国政(衆議院と参議院)・地方(議会と首長)選挙ともに参政権が認められていません。  
最近になって在日韓国・朝鮮人をはじめとする定住外国人の間から参政権を求める声が高まり、最高裁判所においても外国人のうち永住者などに地方自治体での選挙権を与えることは憲法が禁じているものではなく、立法施策に関する事柄である旨が示されています。



い」を求める意見が多く、基本的な部分での日本人との格差を感じながら生活している在日韓国・朝鮮人の姿が感じられます。

国際交流の推進が、多くの人から好意的に受け止められていることは喜ばしいことです。しかしながら、県の行ってきている国際交流に、関心のない人が増えていることも事実です。国際交流の進展が、「内なる国際化」の進展と噛み合っていないことへの無言の意思表示とも受け取れます。今回の調査の回収率が低くなっていることも、裏返せば施策への声なき批判と推察することができます。

こうした声なき声や数々の意見・要望を県、市町村そして県民の誰もが十分に認識して、共に生きていける地域社会にしていくことが、今こそ求められているのです。



## 実態調査結果総括

在日韓国・朝鮮人の意識の面においては、特に若い世代で、これまで隠して押さえつけてきた民族の誇りを積極的に守り、民族の主体性を発揮して生きていこうとする姿勢と、逆に民族的アイデンティティーが希薄化して日本社会で特に肩ひじ張らないで淡々と生きていくという二つの傾向が見て取れます。

自分が在日韓国・朝鮮人として背負わされた苦勞を、子供にはさせたくないという気持ちの具体的手法としても、状況の改善を求めていくという積極的なやりかたと、自分が日本人社会に同化し子供も同化させていくという、どちらかといえば消極的な方法で問題を避けていくやりかたに分かれているようです。もちろん置かれた状況の中ではそうせざるを得ないという面もあるかと思われます。

逆に在日韓国・朝鮮人から見た日本人・日本社会側の理解や制度等については、これまでの交流の成果等を踏まえ、十分とはいえないまでも少しずつは改善されつつあるとの評価を得ています。

しかしながら、在日の人々の日本人・日本社会に対する認識や問題意識が深まってきている中で、日本側の意識や改善の度合いが追いついていかない実態も指摘されています。差別意識が改善されていくのと同時に、日本人の意識の中の在日韓国・朝鮮人の存在も薄れてゆく状況があるようです。

この調査をもって、島根県の在日韓国・朝鮮人の実態がすべて把握しきれているということは難しいかもしれません。回答数の少なさ、調査回数の少なさゆえ必ずしも十分な分析、評価が困難な

場合もあります。

しかし、ここによせられた内容は現実のものであり、同じ県民として島根県に暮らす在日韓国・朝鮮人のおかれている環境、そこでの思いを伝えているものであることは間違いありません。





## 今後の施策の進め方

県は、1995年5月に、国際交流・協力の今後の基本的方向を定めた『島根県国際化推進基本構想（しまね5Kプラン）』を策定しました。この中で、本県の国際化推進のための施策体系の5本の柱のひとつに「共に生きる社会の形成」を掲げ、在住外国人と「共に生きる」地域社会をつくり上げていくための諸施策を積極的に展開していくことといたしました。

韓国・慶尚北道をはじめとする対岸地域（北東アジア地域）との交流を、最も重要な交流先として国際化を推進していくこととしている本県にとって、「内なる国際化」の推進はとりわけ大きな意味を持っており、定住外国人について県民の理解を深めるよう努めるとともに、県が独自に改善できるところは早急に改善し、真の共生社会実現に向けて努力していきたいと思っております。

以下、『島根県国際化推進基本構想』における「共に生きる社会の形成」諸施策の要約を掲載します。

### ① 共に生きる意識づくり

- 学校教育において人権問題や在住外国人の問題について啓発教育を行うとともに、講演会、シンポジウムの開催、啓発パンフレットの発行を通じて、県民理解を促進します。
- 交流機会の拡大などにより、外国人に対する偏見の解消を図り、共に生きる意識の醸成に努めます。

### ② 在住外国人に関する各種制度の整備等

- 在住外国人の意見を直接聴く機会を設け、在

住外国人の意思を行政施策や地域づくりに反映できるよう努めます。

- 地方公務員への在住外国人の採用について受験可能職種拡大に努めます。
- 定住外国人の地方参政権取得の問題について必要な調査、検討を行います。
- 公的年金制度の適用を受けられない一部の定住外国人への対策について調査、検討を行います。
- 山陰朝鮮初中級学校に対する支援策の拡充に努めます。

### ③ 地方参政権問題等についての国への要望

- 定住外国人の地方参政権、地方公務員への採用、無年金者に対する救済措置等について、国に対し調査、検討を要望します。

## 島根県における在日韓国・朝鮮人に関連する最近の動き

1994. 3 山陰朝鮮初中級学校に対し県の私立専修学校等特色教育推進事業による助成決定

. 8 山陰朝鮮初中級学校関係者から朝鮮学校生徒に対する暴行、人権侵害の防止について、県に要請書を提出

. 11 在日本大韓民国民団島根県地方本部が『定住する在日外国人への地方参政権の付与を求める陳情書』及び『在日外国人高齢者等に対する「特別給付金」制度に関する陳情書』を県、市町村の首長、議会に提出

1995. 3 島根県議会「定住外国人の地方参政権の確立を求める意見書」を採択  
(県内市町村では30市町村が採択している)

島根県国際化推進懇話会「これまでの親善交流を基盤とする、協力、共生、地域の活性化(活力)を基本理念として国際化を推進すべき」とした『島根県の国際化推進のあり方についての提言』を知事に提出

. 5 島根県が「共に生きる社会の形成」を国際化推進施策の柱の一つとして位置付けた『島根県国際化推進基本構想』を策定

1996. 5 在日本朝鮮人総聯合会島根県本部が『在日同胞の「地方参政権」に反対する要望書』を県に提出

松江市、益田市、浜田市で専門職の国籍条項の撤廃決定

1997. 3 山陰朝鮮初中級学校に対し、県からの運営費助成決定

市町村が交付する外国籍住民への高齢者・障害者福祉給付金に対する、県の助成決定

## 島根県の職員採用における国籍条項のない職種の拡大

国籍条項のない職種	看護婦、助産婦、保健婦、理学療法士、看護師、歯科衛生士、作業療法士、栄養士、学校栄養士、電気、心理、放射線技師、臨床検査技師、司書、学校司書、船舶乗組員、保母、機械、臨床工学技師、職業訓練指導員、病院医師、研究職のうち行政交流のないもの、技能労務職、介護福祉士
国籍条項のある職種	一般事務職、文化財保護、農業、農業経営、畜産、農業土木、生活改良、林業、水産、土木、建築、化学、獣医、薬学、警察事務、学校事務

## 高齢者に対する特別給付金制度を実施している市町村(1996年度現在)

松江市、浜田市、出雲市、益田市、大田市、安来市、仁摩町、美都町、匹見町、柿木村、津和野町、知夫村



〔参考資料〕

## 大韓民国・朝鮮民主主義人民共和国との交流

### 【大韓民国・慶尚北道との交流】

島根県は1989年10月に韓国・慶尚北道と姉妹提携を行い、以来日韓地方自治体間交流の中でも最も親しく先駆的な交流を展開しています。

① 平成2年度から慶尚北道職員を受入、平成4年度からは島根県職員を慶尚北道に派遣しています。これまで慶尚北道から5名、島根県から3名の職員の相互派遣を行っています。

② 県民の韓国に対する興味と理解も増し、多くの県民が韓国を訪問するようになってきています。

- ・日韓親善少年の船：小中学生の韓国派遣（1988年から1,424人が訪韓）
- ・高校生の韓国派遣：慶尚北道高校生との交流（1994年から200人規模で交流）
- ・高校生のスポーツ交流：柔道、サッカー等の相互派遣交流（1990年から実施）
- ・修学旅行の実施：私立高校だけでなく、県立高校でも実施（1995年から）

③ 韓国・慶尚北道とは互いの歴史と文化を生かした交流が両県道の交流の大きな特徴となっています。

- ・島根県・慶尚北道交流展の開催：伝統芸能団の派遣（1990年慶尚北道亀尾市）
- ・慶尚北道特別文化展の開催：慶尚北道の歴史と文化の紹介（1993年松江市）
- ・歴史、文化に関する交流シンポジウムの開催（1986年から）

日韓交流五千年の歴史と文化（1989）

高麗仏教文化と山陰（1992）

北東アジアの食文化（1993）

古代出雲の神話と伝承（1996）

古代出雲の青銅器文化（1997）

- ・島根県古代文化センターと慶尚北道安東大学校民俗学研究所との姉妹提携

（共同調査は1995年から、姉妹提携は1996年）

- ・両県道教育委員会同士の交流協定の締結（1996年）

- ・教員の相互派遣（1997年～）

④ 学術分野、技術交流の分野でも酸性雨の共同研究や野生生物に関する共同調査を行うとともに、農業、漁業関係の交流も活発に行われています。

⑤ 島根県で行う様々な行事、イベントにも積極的に参加していただき、交流を深めてきています。

- ・しまねエキスポ93「環日本海（東海）交流博（1993）」

- ・北東アジア地域自治体会議93（1993）

- ・慶尚北道商品展示会（1994）

- ・国連地球環境子供サミットinしまね（1994）

- ・ねんりんピックしまねへのゲートボールチーム招請（1995）

- ・北東アジア地域友好技能競技大会への技術者の招請（1996）

- ・北東アジア地域友好技能競技大会やしまね技能フェスティバルへの技術者の招請（1996～）

- ⑥ 県と慶尚北道の姉妹提携によって県内市町村でも熱心に交流するところが増えてきています。
- ⑦ 韓国との国際定期便開設要請や韓国国際観光展への参加を通じた相互交流の促進を図っています。

### 【朝鮮民主主義人民共和国との交流】

- ① 環日本海松江国際交流会議の開催を通じて歴史、文化を生かした交流を展開してきています。
- ・環日本海松江国際シンポジウムの開催（1987）
  - ・古代朝鮮文化と山陰（1991）
  - ・高麗仏教文化と山陰（1992）
  - ・北東アジアの食文化（1993）
- ② 副知事が環日本海松江国際交流会議及び環日本海（東海）交流博への協力要請のため朝鮮民主主義人民共和国対外文化連絡協会を訪問しました。





## 島根県内在住日韓国・朝鮮人実態調査（第2回）結果データ

問1 あなたの性別は  
問2 あなたの年齢は

	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	戦後世代	戦前世代
男性	20	24	22	22	22	13	123	48.8%	54.5%	45.8%	48.9%	51.2%	32.5%	47.1%	48.8%	54.5%
女性	21	19	25	21	18	24	128	51.2%	43.2%	52.1%	46.7%	41.9%	60.0%	49.0%	51.2%	43.2%
不明		1	1	2	3	3	10		2.3%	2.1%	4.4%	7.0%	7.5%	3.8%		2.3%
合計	41	44	48	45	43	40	261	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問3 あなたの本籍(父ないし祖父の出身地)はどこですか

	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	戦後世代	戦前世代
慶尚北道	11	11	23	13	22	13	93	26.8%	25.0%	47.9%	28.9%	51.2%	32.5%	35.6%	26.8%	25.0%
慶尚南道	22	19	14	24	16	17	112	53.7%	43.2%	29.2%	48.3%	37.2%	42.5%	42.9%	53.7%	43.2%
全羅北道		1	1	4	1	1	8		2.3%	2.1%	8.9%	2.3%	2.5%	3.1%		2.3%
全羅南道	4	7	3	2	2	3	21	9.8%	15.9%	6.3%	4.4%	4.7%	7.5%	8.0%	9.8%	15.9%
済州道		2	3			1	6		4.5%	6.3%			2.5%	2.3%		4.5%
忠清北道	1	1	2	1		1	6	2.4%	2.3%	4.2%	2.2%		2.5%	2.3%	2.4%	2.3%
忠清南道		2	2	1	2	4	11		4.5%	4.2%	2.2%	4.7%	10.0%	4.2%		4.5%
江原道	1						1	2.4%						0.4%	2.4%	
不明	2	1					3	4.9%	2.3%							
合計	41	44	48	45	43	40	261	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問4 あなたの出生地はどこですか

	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	戦後世代	戦前世代
本国		9	2	3	17	36	67		20.5%	4.2%	6.7%	39.5%	90.0%	25.7%	8.3%	43.8%
日本(島根県内)	24	23	32	22	7		108	58.5%	52.3%	66.7%	48.9%	16.3%		41.4%	59.4%	22.7%
日本(島根県外)	17	12	14	20	18	3	84	41.5%	27.3%	29.2%	44.4%	41.9%	7.5%	32.2%	32.3%	32.0%
不明					1	1	2					2.3%	2.5%	0.8%		1.6%
合計	41	44	48	45	43	40	261	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問5 いつ頃から島根県に住んでいますか

	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	戦後世代	戦前世代
一年以内	5						5	12.2%						1.9%	3.8%	
一～二年前	2	1	1				4	4.9%	2.3%	2.1%				1.5%	3.0%	
三～四年前	1	1		1			3	2.4%	2.3%		2.2%			1.1%	1.5%	0.8%
四～五年前		2					2		4.5%					0.8%	1.5%	
六年以上前	10	17	17	23	35	40	142	24.4%	38.6%	35.4%	51.1%	81.4%	100.0%	54.4%	33.1%	76.6%
生まれてからずっと	22	23	30	20	7		102	53.7%	52.3%	62.5%	44.4%	16.3%		39.1%	56.4%	21.1%
不明	1			1	1		3	2.4%			2.2%	2.3%		1.1%	0.8%	1.6%
合計	41	44	48	45	43	40	261	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問6 あなたは結婚していますか

	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	戦後世代	戦前世代
既婚(死別・離別含む)	7	34	47	45	43	40	216	17.1%	77.3%	97.9%	100.0%	100.0%	100.0%	82.8%	17.1%	77.3%
未婚	34	10					44	82.9%	22.7%					16.9%	100.0%	
不明			1				1			2.1%				0.4%		
合計	41	44	48	45	43	40	261	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問7 相手の方は同胞ですか、それとも日本人ですか

	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	戦後世代	戦前世代
同胞	3	21	40	41	40	33	178	42.9%	61.8%	85.1%	91.1%	93.0%	82.5%	82.4%	72.7%	89.1%
日本国籍同胞	0	1	2	1	0	0	4		2.9%	4.3%	2.2%			1.9%	3.4%	0.8%
日本人	4	12	5	3	2	4	30	57.1%	35.3%	10.6%	6.7%	4.7%	10.0%	13.9%	23.9%	7.0%
その他	0	0	0	0	0	1	1						2.5%	0.5%		0.8%
不明	0	0	0	0	1	2	3						2.3%	5.0%	1.4%	2.3%
計	7	34	47	45	43	40	216	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問8 あなたの最終学歴は次のどれですか

	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	戦後世代	戦前世代
中学	0	5	10	20	15	7	57		11.4%	20.8%	44.4%	34.9%	17.5%	21.8%	11.3%	32.8%
高校	22	26	24	19	7	2	100	53.7%	59.1%	50.0%	42.2%	16.3%	5.0%	38.3%	54.1%	21.9%
大学	15	12	14	3	2	0	46	36.6%	27.3%	29.2%	6.7%	4.7%		17.6%	30.8%	3.9%
その他	4	1	0	3	18	27	53	9.8%	2.3%		6.7%	41.9%	67.5%	20.3%	3.8%	37.5%
不明	0	0	0	0	1	4	5						2.3%	10.0%	1.9%	3.9%
合計	41	44	48	45	43	40	261	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問9 あなたが通った学校は次のうちどれですか。あてはまるものを全てあげてください

	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	戦後世代	戦前世代
在日民族学校	13	6	7	0	0	0	26	31.7%	13.6%	14.6%				10.0%	19.5%	
日本の学校	27	29	39	44	36	4	179	65.9%	65.9%	81.3%	97.8%	83.7%	10.0%	68.6%	71.4%	65.6%
祖国(戦前)	0	0	0	0	3	20	23					7.0%	50.0%	8.8%		18.0%
祖国(戦後)	1	9	2	1	0	0	13	2.4%	20.5%	4.2%	2.2%			5.0%	9.0%	0.8%
その他	0	0	0	0	2	6	8					4.7%	15.0%	3.1%		6.3%
不明	0	0	0	0	2	10	12						4.7%	25.0%	4.6%	9.4%
計	41	44	48	45	43	40	261	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問10 あなたの家庭では祖国の言葉がどの程度使われていますか

	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	戦後世代	戦前世代
祖国の言葉が多い	1	3	2	2	2	11	21	2.4%	6.8%	4.2%	4.4%	4.7%	27.5%	8.0%	4.5%	11.7%
日本語が多い	21	16	23	24	26	18	128	51.2%	36.4%	47.9%	53.3%	60.5%	45.0%	49.0%	45.1%	53.1%
日本語のみ	19	25	23	19	15	11	112	46.3%	56.8%	47.9%	42.2%	34.9%	27.5%	42.9%	50.4%	35.2%
合計	41	44	48	45	43	40	261	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



問い11 あなたは祖国の言葉をどの程度話すことができますか

	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	戦後世代	戦前世代
よくできる	12	13	9	6	9	26	75	29.3%	29.5%	18.8%	13.3%	20.9%	65.0%	28.7%	25.6%	32.0%
まあできる	2	3	8	5	11	11	40	4.9%	6.8%	16.7%	11.1%	25.6%	27.5%	15.3%	9.8%	21.1%
単語程度 できない	8	11	20	20	16	1	76	19.5%	25.0%	41.7%	44.4%	37.2%	2.5%	29.1%	29.3%	28.9%
合計	41	44	48	45	43	40	261	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問い12 あなたの家での生活に、次のようなことがありますか。あてはまるものを全てあげてください

	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	戦後世代	戦前世代
料理	40	38	45	40	40	36	239	97.6%	86.4%	93.8%	88.9%	93.0%	90.0%	91.6%	92.5%	90.6%
衣装	35	37	38	37	35	34	216	85.4%	84.1%	79.2%	82.2%	81.4%	85.0%	82.8%	82.7%	82.8%
祭事	26	26	31	33	35	31	182	63.4%	59.1%	64.6%	73.3%	81.4%	77.5%	69.7%	62.4%	77.3%
結婚式祝事	22	17	30	27	31	25	152	53.7%	38.6%	62.5%	60.0%	72.1%	62.5%	58.2%	51.9%	64.8%
本、歌	20	20	28	20	20	20	128	48.8%	45.5%	58.3%	44.4%	46.5%	50.0%	49.0%	51.1%	46.9%
その他	0	0	1	0	0	2	3			2.1%			5.0%	1.1%	0.8%	1.6%
ない	1	2	3	0	0	1	7	2.4%	4.5%	6.3%			2.5%	2.7%	4.5%	0.8%
合計	41	44	48	45	43	40	261	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問い13 あなたは韓国・朝鮮人であることを隠して日本の学校に通ったことがありますか

	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	戦後世代	戦前世代
ある	9	14	20	22	11	0	76	33.3%	48.3%	51.3%	50.0%	30.6%		42.5%	45.3%	39.3%
ない	17	14	18	21	24	4	98	63.0%	48.3%	46.2%	47.7%	66.7%	100.0%	54.7%	51.6%	58.3%
不明	1	1	1	1	1	0	5	3.7%	3.4%	2.6%	2.3%	2.8%		2.8%	3.2%	2.4%
合計	27	29	39	44	36	4	179	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問い14 あなたは本名のほかに日本風の通名を持っていますか

	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	戦後世代	戦前世代
持っている	31	37	31	42	40	33	214	75.6%	84.1%	64.6%	93.3%	93.0%	82.5%	82.0%	74.4%	89.8%
持っていない	4	5	9	2	2	5	27	9.8%	11.4%	18.8%	4.4%	4.7%	12.5%	10.3%	13.5%	7.0%
過去持っていた	6	2	7	1	1	1	18	14.6%	4.5%	14.6%	2.2%	2.3%	2.5%	6.9%	11.3%	2.3%
不明	0	0	1	0	0	1	2			2.1%			2.5%	0.8%	0.8%	0.8%
合計	41	44	48	45	43	40	261	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問い15 あなたはなぜ通名を使うのですか

	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	戦後世代	戦前世代
就職等の不利益	5	6	8	13	9	5	46	16.1%	16.2%	25.8%	31.0%	22.5%	15.2%	21.5%	19.2%	23.5%
本名を使いたくない	3	7	8	0	3	0	21	9.7%	18.9%	25.8%		7.5%		9.8%	18.2%	2.6%
なんとなく	9	10	10	11	10	13	63	29.0%	27.0%	32.3%	26.2%	25.0%	39.4%	29.4%	29.3%	29.6%
その他	10	13	3	14	18	11	69	32.3%	35.1%	9.7%	33.3%	45.0%	33.3%	32.2%	26.3%	37.4%
不明	4	1	2	4	0	4	15	12.9%	2.7%	6.5%	9.5%		12.1%	7.0%	7.1%	7.0%
合計	31	37	31	42	40	33	214	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問い16 あなたは本名と通名をどのように使っていますか

	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	戦後世代	戦前世代
本名のみ	3	0	3	1	2	2	11	9.7%		9.7%	2.4%	5.0%	6.1%	5.1%	6.1%	4.3%
本名が多い	2	3	3	6	2	4	20	6.5%	8.1%	9.7%	14.3%	5.0%	12.1%	9.3%	8.1%	10.4%
同じくらい	3	4	5	4	6	11	33	9.7%	10.8%	16.1%	9.5%	15.0%	33.3%	15.4%	12.1%	18.3%
通名が多い	6	6	5	13	11	8	49	19.4%	16.2%	16.1%	31.0%	27.5%	24.2%	22.9%	17.2%	27.8%
殆ど通名のみ	14	21	13	15	17	6	86	45.2%	56.8%	41.9%	35.7%	42.5%	18.2%	40.2%	48.5%	33.0%
不明	3	3	2	3	2	2	15	9.7%	8.1%	6.5%	7.1%	5.0%	6.1%	7.0%	8.1%	6.1%
計	31	37	31	42	40	33	214	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問い17 あなたが韓国・朝鮮人であることを地域の人・職場の同僚は知っていますか(離職・引退されている方は最後の職場についてお答えください) (1)職場

	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	戦後世代	戦前世代
みんな知っている	26	26	29	31	27	27	166	63.4%	59.1%	60.4%	68.9%	62.8%	67.5%	63.6%	60.9%	66.4%
何人が知っている	10	14	12	9	6	2	53	24.4%	31.8%	25.0%	20.0%	14.0%	5.0%	20.3%	27.1%	13.3%
誰も知らない	0	0	1	1	1	0	3			2.1%	2.2%	2.3%		1.1%	0.8%	1.6%
わからない	4	1	3	0	0	0	8	9.8%	2.3%	6.3%				3.1%	6.0%	
不明	1	3	3	4	9	11	31	2.4%	6.8%	6.3%	8.9%	20.9%	27.5%	11.9%	5.3%	18.8%
合計	41	44	48	45	43	40	261	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問い17 (2)地域

	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	戦後世代	戦前世代
みんな知っている	24	26	31	35	34	37	187	58.5%	59.1%	64.6%	77.8%	79.1%	92.5%	71.6%	60.9%	82.8%
何人が知っている	12	17	14	8	5	3	59	29.3%	38.6%	29.2%	17.8%	11.6%	7.5%	22.6%	32.3%	12.5%
誰も知らない	0	0	2	0	1	0	3			4.2%		2.3%		1.1%	1.5%	0.8%
わからない	5	1	1	2	2	0	11	12.2%	2.3%	2.1%	4.4%	4.7%		4.2%	5.3%	3.1%
不明	0	0	0	0	1	0	1					2.3%		0.4%		0.8%
合計	41	44	48	45	43	40	261	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問い18 あなたは何でも話し合えるような心許せる日本人の友人を持っていますか

	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	戦後世代	戦前世代
大勢いる	11	6	9	10	13	14	63	26.8%	13.6%	18.8%	22.2%	30.2%	35.0%	24.1%	19.5%	28.9%
何人がいる	19	27	29	28	25	16	144	46.3%	61.4%	60.4%	62.2%	58.1%	40.0%	55.2%	56.4%	53.9%
いない	11	10	10	7	5	10	53	26.8%	22.7%	20.8%	15.6%	11.6%	25.0%	20.3%	23.3%	17.2%
不明	0	1	0	0	0	0	1		2.3%					0.4%	0.8%	
合計	41	44	48	45	43	40	261	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



問い19 あなたの身の回りの日本人が、在日韓国・朝鮮人の実態や立場についてよく理解していないと感じることがありますか

	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	戦後世代	戦前世代
よくある	7	7	13	6	6	8	47	17.1%	15.9%	27.1%	13.3%	14.0%	20.0%	18.0%	20.3%	15.6%
時々ある	20	27	26	32	25	19	149	48.8%	61.4%	54.2%	71.1%	58.1%	47.5%	57.1%	54.9%	59.4%
殆どない	13	9	5	6	10	11	54	31.7%	20.5%	10.4%	13.3%	23.3%	27.5%	20.3%	21.1%	
不明	1	1	4	1	2	2	11	2.4%	2.3%	8.3%	2.2%	4.7%	5.0%	4.2%	4.5%	3.9%
合計	41	44	48	45	43	40	261	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問い20 あなたやあなたの家族がこれまでに韓国・朝鮮人であることで差別を体験したことがありますか。

	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	戦後世代	戦前世代
行政・制度において	7	14	7	14	15	10	67	17.1%	31.8%	14.6%	31.1%	34.9%	25.0%	25.7%	21.1%	30.5%
職業上	6	9	8	12	7	7	49	14.6%	20.5%	16.7%	26.7%	16.3%	17.5%	18.8%	17.3%	20.3%
学校教育	10	13	15	19	6	6	69	24.4%	29.5%	31.3%	42.2%	14.0%	15.0%	26.4%	28.6%	24.2%
地域において	5	7	11	10	5	4	42	12.2%	15.9%	22.9%	22.2%	11.6%	10.0%	16.1%	17.3%	14.8%
結婚に関して	2	6	5	4	2	2	21	4.9%	13.6%	10.4%	8.9%	4.7%	5.0%	8.0%	9.8%	6.3%
その他	0	5	7	0	8	3	23		11.4%	14.6%		18.6%	7.5%	8.8%	9.0%	8.6%
計	41	44	48	45	43	40	261	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問い21 あなたの今後のことについて、どのようにお考えですか

	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	戦後世代	戦前世代
祖国に帰国	2	3	1	2	2	9	19	4.9%	6.8%	2.1%	4.4%	4.7%	22.5%	7.3%	4.5%	10.2%
誇りを持って在日	20	20	26	25	31	28	150	48.8%	45.5%	54.2%	55.6%	72.1%	70.0%	57.5%	49.6%	65.6%
日本国籍	11	16	16	8	8	1	60	26.8%	36.4%	33.3%	17.8%	18.6%	2.5%	23.0%	32.3%	13.3%
その他	5	5	1	6	0	1	18	12.2%	11.4%	2.1%	13.3%		2.5%	6.9%	8.3%	5.5%
不明	3	0	4	4	2	1	14	7.3%		8.3%	8.9%	4.7%	2.5%	5.4%	5.3%	5.5%
合計	41	44	48	45	43	40	261	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問い22 近年の国際化の推進に伴い、在日韓国・朝鮮人に対する行政施策や住民意識が改善されたと思いますか (1)行政施策について

	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	戦後世代	戦前世代
改善した	0	3	2	7	0	5	17		6.8%	4.2%	15.6%		12.5%	6.5%	3.8%	9.4%
少しは改善した	23	23	28	18	25	23	140	56.1%	52.3%	58.3%	40.0%	58.1%	57.5%	53.6%	55.6%	51.6%
改善しない	14	11	12	11	9	8	65	34.1%	25.0%	25.0%	24.4%	20.9%	20.0%	24.9%	27.8%	21.9%
わからない	1	0	2	1	1	0	5	2.4%		4.2%	2.2%	2.3%		1.9%	2.3%	1.6%
不明	3	7	4	8	8	4	34	7.3%	15.9%	8.3%	17.8%	18.6%	10.0%	13.0%	10.5%	15.6%
合計	41	44	48	45	43	40	261	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問い22 (2)住民意識について

	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	戦後世代	戦前世代
改善した	1	2	2	3	1	9	18	2.4%	4.5%	4.2%	6.7%	2.3%	22.5%	6.9%	3.8%	10.2%
少しは改善した	25	18	24	23	25	20	135	61.0%	40.9%	50.0%	51.1%	58.1%	50.0%	51.7%	50.4%	53.1%
改善しない	10	16	16	11	9	7	69	24.4%	36.4%	33.3%	24.4%	20.9%	17.5%	26.4%	31.6%	21.1%
わからない	1	1	2	1	0	0	5	2.4%	2.3%	4.2%	2.2%		1.9%	3.0%	0.8%	
不明	4	7	4	7	8	4	34	9.8%	15.9%	8.3%	15.6%	18.6%	10.0%	13.0%	11.3%	14.8%
合計	41	44	48	45	43	40	261	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問い23 島根県は1989年に慶尚北道と姉妹提携を行ったのはじめ、北東アジア地域を中心とした国際交流を推進していますがこのことについてどのようにお考えですか

	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	戦後世代	戦前世代
進めるべきだ	11	18	17	25	28	24	123	26.8%	40.9%	35.4%	55.6%	65.1%	60.0%	47.1%	34.6%	60.2%
特に関心がない	16	19	15	10	4	8	72	39.0%	43.2%	31.3%	22.2%	9.3%	20.0%	27.6%	37.6%	17.2%
良とは思わない	0	0	1	0	2	0	3			2.1%		4.7%		1.1%	0.8%	1.6%
その他	11	5	12	4	2	8	42	26.8%	11.4%	25.0%	8.9%	4.7%	20.0%	16.1%	21.1%	10.9%
不明	3	2	3	6	7	0	21	7.3%	4.5%	6.3%	13.3%	16.3%		8.0%	6.0%	10.2%
合計	41	44	48	45	43	40	261	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問い24 島根県が今後行う在日韓国・朝鮮人に対する施策について、ご意見がありましたら何でも自由にお書き下さい

	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	計	戦後世代	戦前世代
北朝鮮との交流	11	6	13	10	7	15	62	61.1%	25.0%	43.3%	32.3%	28.0%	57.7%	40.3%	41.7%	39.0%
朝鮮学校への助成	12	5	14	9	6	15	61	66.7%	20.8%	46.7%	29.0%	24.0%	57.7%	39.6%	43.1%	36.6%
国民年金の支給・適用	10	6	11	8	5	11	51	55.6%	25.0%	36.7%	25.8%	20.0%	42.3%	33.1%	37.5%	29.3%
地方参政権	5	7	4	10	11	6	43	27.8%	29.2%	13.3%	32.3%	44.0%	23.1%	27.9%	22.2%	32.9%
外国人登録の改正・撤廃	8	3	9	7	6	10	43	44.4%	12.5%	30.0%	22.6%	24.0%	38.5%	27.9%	27.8%	28.0%
地方公務員への採用	0	4	8	11	2	0	25		16.7%	26.7%	35.5%	8.0%		16.2%	16.7%	15.9%
在日外国人施策の推進	2	6	3	4	3	1	19	11.1%	25.0%	10.0%	12.9%	12.0%	3.8%	12.3%	15.3%	9.8%
就職差別根絶(地方公務員除)	1	3	5	8	1	0	18	5.6%	12.5%	16.7%	25.8%	4.0%		11.7%	12.5%	11.0%
地域の意識改善	1	4	2	5	1	1	14	5.6%	16.7%	6.7%	16.1%	4.0%	3.8%	9.1%	9.7%	8.5%
国際交流の推進	0	4	1	2	2	1	10		16.7%	3.3%	6.5%	8.0%	3.8%	6.5%	6.9%	6.1%
教育の改善	2	3	0	1	1	0	7	11.1%	12.5%		3.2%	4.0%		4.5%	6.9%	2.4%
その他	0	4	3	5	6	3	21		16.7%	10.0%	16.1%	24.0%	11.5%	13.6%	9.7%	17.1%
合計	18	24	30	31	25	26	154	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



朝鮮民主主義人民  
共和国との国交正常化を  
促進すること。就職の差別を  
なくすこと。(20代女性)



採用にあたって  
本名ではなく  
通名の使用を  
強いられた。  
(20代女性)



地方公務員採用が  
可能な方向に進めば住民  
意識が画期的に改善され、民間  
の就職にある目に見えない壁が  
徐々に取り除かれていくと思っ  
ます。(50代男性)

# 自由

学校教育(民族  
教育)の理解及び援助  
などその立場を理解した  
施策や日本の学校との交流  
を望む。(20代男性)



本名で日本の  
学校に通っている長男  
(小4)が日本人だったら  
いいのにといい。  
(30代女性)

差別を逃れるため  
自分を隠し、日本名で日本人  
らしく振る舞っている。  
(70代男性)

成績がよく人から  
クラス委員、児童委員に  
選ばれても先生の判断で一度も  
なれなかった。(40代女性)

お互いが素直に認め合い、  
次代を担う若者が理由なく  
人を差別しないような人間  
として成長し、思いやりのある  
平和な地域づくりをしてほしい。  
(30代女性)



朝鮮人、  
朝鮮人と  
いっては物を  
投げつけてきた。  
(50代女性)





一番選挙権が欲しい。  
日本人は私たちが選挙権があると思  
っている人が多々あります。

(60代女性)



小学校入学  
手続きの通知  
が外国人という  
ことで届かなか  
った。

(30代女性)

無理に連れてこられた者に、  
自分の国に帰れという声も聞くが  
過去を元に戻せますか。

(30代女性)

最低限の  
生活の保障(年金)  
があれば幸福に  
感じます。

(70代女性)



いくら書いても他県より  
先んじる改善は望めないから  
書いても仕方がないと思  
います。

(70代男性)

きちんと仕事を  
持ち、納税義務も  
果たしているのに参政権  
がないのはおかしい。

(20代女性)

小中高の学校教育の中で  
正しい歴史認識を養うこと。  
納税の義務も果たしているので権利  
も日本人並に同等にすべき。

(50代女性)

国際交流を  
推進するのは  
すごくうれし  
いです。

(30代女性)



特別なことは  
望みません。  
ただただ普通  
に普通通りに  
お願いします。

(日本国民と  
同じように)  
(40代女性)

# 意見

発行：島根県総務部国際課

1997年3月発行

1998年3月第1回改訂

〒690-0887 島根県松江市殿町1番地

☎0852-22-6462、6463

E-mail: kokusai@pref.shimane.jp

表紙・イラスト：宋 貴美子(ソンキミジャ)  
西宮市在住「イラスト版国際結婚ガイドブック」「アンニョンハセヨ指導の手引き」等作品多数





